

1 自己評価及び外部評価結果

事業所概要 (事業所記入)

事業所番号	0572807105		
法人名	羽後町		
事業所名	グループホーム やまびこ		
所在地	秋田県雄勝郡羽後町下仙道風平97番地1		
自己評価作成日	平成22年9月27日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

評価機関概要 (評価機関記入)

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成22年10月20日		

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

<p>ホームを家庭・家族としてとらえ、生活の中で自由に感情表現ができ、時間にとらわれずに、個々の生活リズムで暮らしていける空間です。</p>
--

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

<p>当ホームは自治体が運営する多機能な施設を備えたケアセンターの一角にあり、特別養護老人ホームやデイサービスなど、様々なサービス事業所・地域交流センターが併設されている。開設して8年になるが、自治体の理解により、職員の異動はできるだけ抑えている。人員配置も他のグループホームと比較して多く、利用者の重度化が目立つ中で手厚い介護を行っている。また、色々な施設が併設されていることから建物も広く、冬の間や雨季でも建物内の散歩ができたり、デイサービス利用の方と面会できたりと、利点が多い。広々としたホーム内は和式旅館を思わせるような落ち着いた造りとなっている。</p>
--

.サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目 36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目 11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目 30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活の中で、代表者・管理者・職員は、ホームとして掲げる「喜怒哀楽」の理念を共有し、利用者が自分らしく感情表現出来るように、取り組んでいます。	利用者の個性を大切に、自分の気持ちを素直に表現してストレスを溜めこまないような生活をしていただきたいという思いから、理念に沿い利用者の感情表出を妨げないように支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所が孤立することなく地区の行事(夕涼み会・JA健康まつり・運動会・敬老会)へ参加し、地域の方々との交流に努めています。また、お菓子の提供ボランティア等の受入も行っています。	学芸会の見学に行ったり、保育園の夕涼み会に参加するなど、地域と密着した形で双方の交流が図れるよう取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通して積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症サポーター研修への参加の際、情報を提供したりする事で行っていると考えています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催される運営推進会議で、ホームでの取り組みや日々の生活状況を報告し、会議で出された意見を、今後のサービスの質向上に活かせるように努めています。	利用者の家族、地域の代表、役場の職員等の参加を得て、定期的開催されている。会議では、利用者の生活状況や、ホームでの出来事について報告し、忌憚のない意見交換を行い、出された意見はサービスの向上に活かすよう努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームは自治体の運営であり、併設されているケアセンターと密接に関わっており、連携をとりながら、サービス向上の取り組んでいます。	併設のケアセンターとの連携がうまく図られているほか、地域包括支援センターの職員から運営推進会議への参加を得るなど、運営者である自治体と共に、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者および職員は、拘束に正しく理解しています。が、現在家族の同意のもと、利用者1名に対して1日3時間の拘束(車椅子にY字体にて抑制)を行っています。	拘束による弊害を理解し、出来るだけ身体拘束を行わないよう努めているが、どうしても安全確保のために拘束を行わなければならない場合は、家族から同意をいただき、出来るだけ短時間の拘束となるよう努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアセンター全体として、虐待防止にマニュアルを作成して取り組んで学ぶ機会を設け、その会議に職員が参加し、ホーム内の会議で共有し、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会等へ参加し、代表者や関係者と話し合う場を設けて、活用出来るように支援しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解 納得を図っている	利用者や家族等との不安や疑問を尋ね、十分な説明を行い、理解 納得してもらっています。		
10	6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見・要望が24時間相談出来る窓口を設け、それらを運営に反映できるように対応しています。	家族と直接話せる機会を活用したり、苦情受付の窓口の取り決めについて掲示をしている。また、運営推進会議に家族の出席をお願いして、利用者・家族から意見を出していただくよう努めている。	
11	7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員との会議を月に1回ないし2回開催し、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。内容によっては代表者への参加を要請しています。	定期的な会議を開催し、職員の意見やアイデアを受け止めてケアサービスの向上に繋げ、改善が図れるよう努めている。また、人事異動等も、利用者や職員の馴染みの関係性を重視するなど、できるだけ職員の意見に配慮している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境 条件の整備に努めている	管理者や職員各自が向上心を持って働けるよう職場環境 条件の整備に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、事業所職員を段階的に育成することに力を入れ、研修会の参加について適時に行っています。また、職員会議等を通じ、復命研修を行い研修の内容を職員全体で共有できるように努めています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所が山間部にあり、同業者との交流が難しい面があるものの、地域のグループホーム連絡協議会等に参加した職員からの情報を活かし、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入段階で、利用者や家族等の会話から、利用者の生活歴を踏まえ、事業所への要望・不安を解消する事での安心を確保する為の関係作りに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の要望を介護計画に取り入れ、不安解消に努めた関係作りを行っています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時間等にとらわれず、利用者個々のニーズに沿い、また、自由に感情表現出来るように努め、利用者との関係でなく、共に生活している者同士としての関係を築く努力をしています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族等を交えた交流の場を設け、通院介助・受薬・盆帰省・外泊等利用者と家族の絆を大切にしながら、共に利用者を支えていく関係を築いています。		
20	⑧)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みのかかりつけ医師や理美容室との関係を継続できるように支援しているが、最近は認知症の進行やADL低下等により支援が厳しくなっているのが現状です。	利用者の馴染みの理美容院に行ったり、かかりつけ医を受診するなど、出来るだけこれまでの地域との関係を継続できるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の心身の状況変化や、利用者同士の関係に対応しきれない部分が多く、また、入居者女性8名、男性1名の状況から課題が多いようです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、必要な家族等に対しては行って行きたい。		
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	業務や、日々の利用者の心身の状態により、利用者本位には検討できていません。	利用者の思いに手助けが出来るよう、入居前の楽しみ事を把握したり、日常の表情や行動、しぐさから推し量っている。また、声掛けや会話の中からも思いや意向を拾い上げながら把握に努めた上、職員間で検討し、介護計画に取り入れている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等の面会の際などの会話を通じて、把握に努めています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の介護計画に沿った日々の記録を通し、また、毎日のバイタルチェック等で把握に努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議(参加できる家族には要請)を開催し、介護計画作成前に家族の同意を得て、介護計画に沿って介護を行っています。	介護計画の実施にあたっては、観察と記録を行い、その結果を新たな介護計画に反映させている。家族にもサービス担当者会議の開催前に意見や要望を伺い、介護計画作成後は同意を得ているなど、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画となっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日勤帯と夜勤帯にわけて、個々の利用者の介護計画に沿って記録し、その他にも連絡ノートを活用しながら情報の共有に努めています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる 小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回のボランティア(手作りお菓子)を受け入れたりしながら支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援しています。	利用者の馴染みのかかりつけ医や歯科医に受診できるよう支援している。基本的には家族が受診に付き添っているが、家族の都合や利用者の重度化によって家族での受診付き添いが難しくなった時は、ホームで対応できる体制が出来ているなど、適切な医療を受けられるよう支援している。また、受診結果を家族に報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師やケアセンターの看護師と連携を図り支援しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医師および看護師と入院後の治療方針や、退院後のケアについてその都度ムネテラが行われています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向け利用者の家族等へは、状態の変化の応じその都度話し合いを行い、その結果について職員は共有しています。24時間体制で協力医療機関と連携がとれています。急変時も代表者や管理者へのオンコール体制もできています。	ホームで出来ることを利用者・家族に明確に示した上で、利用者・家族の希望に沿って、出来るだけの支援が行えるような体制作りに取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間でも応急手当や初期対応に個人差があり、定期的な実践訓練も行えていません。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ケアセンターで行っていて、それに参加しています。	避難訓練は、ケアセンターと合同で行っており、最近では夜間を想定して実施した。近隣には、非常時や災害時の協力隊が組織されており、協力体制ができています。	特に夜間の火災や地震、豪雨・大雪等の様々な災害に対しても具体的に想定した避難誘導策を作成し、いざという時に備えて、安全な避難誘導ができるよう、今後も訓練を重ねる事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー確保については職員に個人差もあり、それぞれが試行錯誤をくり返しながら努めています。記録や、個人情報に関しては行えています。	開設して8年が過ぎ、利用者への言葉掛けの内容・方言の意義や語調などの接遇について改めてホーム全体で検討している。更に、人格の尊重を意識して言葉掛けや対応を行い、改善に向けて取り組んでいる。	利用者への言葉かけやプライバシー確保に関して、共通の認識が持てるよう協議し、今後も利用者個々に合わせた接遇を職員間で統一していくことが期待される。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定については働きかけは行っているが、出来ていない事のほうが多いようです。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度は希望に沿って支援していますが、まだできる要素はあるようである。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	いきつけ(馴染み)の理容・美容院を利用できるように支援しています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の咀嚼・嚥下能力に合わせて支援しています。食事準備等はできる事を模索し、職員と一緒にしています。	利用者の残存能力や生活歴を基に職員と一緒に食事の準備を行ったり、旬の食材を採り入れて季節感を味わっている。また、入居の段階で嗜好調査を行い、利用者一人ひとりの好みに合わせて食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面はケアセンターの栄養士に相談しながら献立を作成しています。必要に応じて食事・水分摂取チェック表を活用し支援しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態や能力に応じた口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「尊厳の保持」に努め、排泄時間・排泄量の記入シートを活用し、個々にあったオムツを使用等職員が共通認識として支援しています。	一人ひとりの排泄の習慣やパターンを把握しており、排泄にかかわる用品の工夫を行ったり、プライバシーや羞恥心に配慮するなどの支援を心掛けている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに、必要に応じては下剤等を服用しています。食事も消化のよい物や繊維質の食材を献立に取り入れています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日バイタルチェックを活用し、入浴可能か否かの判断をし、入浴を楽しむことができるように支援しています。が、利用者の希望に沿った入浴時間の提供は出来ていません。	健康状態に合わせて入浴の可否を判断しながら、安全な入浴支援に努めている。入浴できない時も気持ち良く過ごせるように足浴や清拭等を取り入れた支援を行っている。	今後も、入浴前から入浴後までの身体の状態把握や体調の急変時に対応するとともに、利用者個々に合わせた方法で、より安全で心地よい入浴支援を継続していくことが期待される。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンの把握と不眠時の対応について、日々観察し職員が共有し支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・副作用・用量や用法について一覧表を作成し、服薬管理と見守りの徹底を行っています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った支援を行っています。(細仕事、読書 裁縫など)		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	週2回の食材の買い物や、理容・美容院への同行、他市町村への花見や季節の行事見学など支援しています。	利用者一人ひとりが希望する理容・美容院へ個別に出掛けたり、かつて住んでいた自宅周辺をドライブするなどの支援を行っている。また、行事の際は全員で花見やドライブに行くなど、利用者が閉じこもらないように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に外出し、利用者に商品を選んでもらい、会計まで出来るように可能な利用者には、支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の出来ない部分を補いながら、自由に電話や手紙ができるように支援しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的であるように、玄関に花（造花）を飾ったりして、配慮しています。	食堂に隣接した和室には、懐かしさを感じさせる茶ダンスがおかれたり、隅にはきれいにたたんだ洗濯物が置かれているなど、家庭的でゆっくりと過ごせる雰囲気がある。また、廊下のソファーには座布団が置かれたり、安心感のある装飾をするなど、利用者が馴染みやすい空間づくりに努めている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている 認知症対応型共同生活介護限定項目とする	数箇所にソファーや長いすを用意し、居場所を確保しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に対する思い入れも個人差がありますが、居室に使い慣れたもの（タンスなど）や好みのもの（写真立て、造花、家族等からの贈り物）を入れ配慮しています。	家族の協力を得ながら、利用者の使い慣れたものを持参してもらっている。また、身体状況の変化に応じて居室の床を畳やフローリングにしたり、ベッドを置いたりするなど、一律の仕様とせず利用者が過ごしやすいよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差もなくいたる所に手すりを設け、誤認しやすい場所には目印をつける等の工夫がされ、一人一人のわかる力が活かされるように配慮しています。		